

news

どこからでも切れるスティック
包材「ボロン」に注力

SDGs時代「人にやさしい」に着目

包装専門メーカーとして60年以上の実績を持つ東邦樹脂工業(東京都中央区、03-3324-5731)本社工場(栃木県野木町)では高付加価値のラミネートフィルム「ボロン」(図1)の提案を強化している。最大の特徴は「どこ

からでも切れる」という易開封性。スティック包装に使用される一般的な包装材は断封部分にフツチ(切り口)をつけて開封しやすくしているが、ボロンはフツチを付けないでもタテ・ヨコ・ナナメンどこからでも開封できる。

東邦樹脂工業

簡単に離れるという特徴はユニバーサルデザイン。側面も併せ持つ。高齢者のように手の力の弱い方・目の不自由な方でも簡単に開けられるのは商品の付加価値になる。同社担当者は、「性別・年代・障

害の有無にかかわらず、誰ひとり残さない【ひとに優しい】包装に思いを込め、健康食品業界に開拓を遂げたいだけだ」と語り、



易開封性を強みとする他のフィルムと比べてもコスト面で勝負できるという。開けやすい包装材はこ

SUSTAINABLE GOALS



SDGsの一つ
「不平等をなくす」

れまでゼロファンが主に用いられていたが、価格や加工適性の面からもゼロファンの代替品としてボロンの採用が進んでいる。

ボロンの加工は栃木県野木にある自社工場で行う。長年培ってきたノウハウによって印刷・ラミネートも含めた工程を一貫して行える管理体制を構築する。現在は一般食品から健康食品まで幅広く採用され、健康食品では青汁製品をはじめとする粉末類粉製品のスティック包装に採用されている。同社では今後、高付加価値の包装として健康食品向けに積極的に提案を行い、内容物と包装材の相性など商品設計の相談にも対応する。さらに希望があればサンプルの提供も可能という。